

はじめに

ことばは頭を使います。ことばの巧みな使い手は聡明で、理性と知性を備えているように見えるでしょう。

しかし、ことばはときに感情をかき立て、理性を奪います。合理性からかけ離れた行動に私たちを駆り立てることもあります。ことばは物事を整理し、理解するのを助けてくれますが、ときに私たちを混乱させ、迷走させ、混沌こんとんに追いこむ。思考の土台を揺るがし、冥界や神秘の世界に引き込むことさえあります。その作用はさながら魔術のようです。いったいなぜ、そんなことになるのでしょうか。実に不思議です。

その秘密は「形」にある、というのが本書の答えです。ことばは決して抽象的な意味からのみ成っているわけではありません。音があり文字があり、硬さややわらかさがあり、長さや短さや、不安定さや儂はかなさもある。ニコニコしたかと思うと、むすつとしたり、居丈高になったり。そうしたさまざまな要素がからんで、私たちの感情や生理に影響を与えるのです。

こうした作用は、魔術の世界からはかけ離れた場にまで及びます。たとえば駐車場の契約書

や、新型コロナウイルス接種の注意書きや、学習指導要領や、料理本など私たちがごく理性的に接していると思いがちな文書でも、形の作用が効果を持ちます。これらの文書は形の力を借りることによってこそ、持ち味を發揮するのです。

ことばにはローカル・ルールがあります。契約書には契約書の世界でしか通用しないような独特な言い回しがある。料理のレシピや、式辞の挨拶あいさつもそうです。ローカルな世界に入り込んでいるときには、私たちはごく自然にそうしたことばのルールに従う。でも、所変われば、そうしたルールが奇妙に感じられる。そこではじめて、「あ、こんな作用が働いていたんだ」と気づくでしょう。さながら料理の味付けの秘密をのぞき見たような気分です。

味付けの秘密がわかれば、自分の料理にも生かすことができます。自分で書いたり話したりするときにも、よりうまくやれる。狙った効果を生み出すことができる。

ことばは中身であり入れ物です。文章を書くこととしてうまくいかないときは、中身と入れ物がかみ合っていないのかもしれないかもしれません。内容のことばかり考え、頭でっかちになると、入れ物のことを忘れがちになります。どんなことばで、どう語るかを準備しなければ、演説も文章も効果を發揮しないでしよう。「形」がどのように読む人に働きかけるかを確認すれば、いずれは自分でもそうした機能を利用できるようになるはず。こうした形への注目は、このところ話題になっている生成系AIとうまく付き合うためにもおおいに役に立つでしょう。AIが

生み出す文章は実に自然で、まるで生身の人間が書いたように見えるのですが、この「自然さ」は統計処理によって作られたものです。つまり、AIは内容のことなど考えずに、あくまでことばの外形について演算処理を行うことで、まるで人間がことばをあやつるかのような生命らしさを手に入れているわけです。これはぜんぜん自然ではない。むしろ根本的な意味で「つくられたもの」だと言えるでしょう。

しかし、これは「ずる」なんでしょうか。不正なんでしょうか。実は人間も、おそらく無意識のうちにも上手に形に注目することで、自然さを手に入れてきたのではないのでしょうか。私たちは多かれ少なかれ形に対する感受性を備えています。また、個人差があるとはいえ、それを研ぎ澄ませる能力も持っている。形になじみ、依存し、形に支配されることもあるけれど、ときには形を利用し、形で勝負することもできる。そういう意味では私たちは生成系AIと同じ土俵に乗ることができのです。形への意識を手がかりにうまくAIと渡り合うことができます。あと必要なのは、もう一押し、形への意識を高めることです。

本書は二〇二三年に刊行した『事務に踊る人々』（講談社）の「実践編」にあたります。同書では文化と形式の関係をじっくりと考察しましたが、本書ではことばがどのように形とかわるかを具体例とともに示し、かつ練習問題や作業例を通してことばの用法を理解する方法も盛

り込みました。

各章の冒頭と終わりには「練習問題」と「まとめ」を置いています。「練習問題」に対する答えは本文を読んでいただければわかりますが、本文の内容を手っ取り早くふり返りたいという人のために、要点を箇条書きにした「まとめ」を添えました。是非、ご活用いただければと思います。

本書のもう一つの特徴は、「らくがき式」です。文章の形を突き止めるためには、その特徴を目に見えるようにすると助けになります。そのための第一歩としては、文章に書き込みを入れるのがいいと私は考えています。本書のところどころ（三八頁など）にそうした書き込みの例を「らくがき式」として載せました。もともと『名作をいじる』（立東舎、二〇一七年）で紹介した方法ですが、いろいろと応用可能だと思っています。

なお、「らくがき式」を試みるにあたってはいくつかの注意点がありますので、念のため、記しておきます。ルールを守って、実り豊かな「らくがき」を実践しましょう。

- 図書館の本や他の人が所有する本にはらくがきしないでください。
- らくがきはあくまで敬意と愛をもってやってください。
- らくがきをする本は、トラブルを避けるためにも、なるべく著者が明記されていないもの

や、古典作家のものにするのがおすすりめです。ネットにあげるときにも、十分な注意を払
いましよう。

以上を踏まえて、上手に本書をご活用いただければと思います。